

合同検討委員会ニュース

【鳴子温泉地域版】第2号 2021年11月発行

未来を担う子どもたちへ ー教育環境の充実を目指してー

編集発行：学校教育環境整備推進室

問合せ先：大崎市教育委員会 教育総務課

TEL：72-5032 FAX：72-4004

メール：ed-soumu@city.osaki.miyagi.jp

第2回合同検討委員会が開催されました

小学校・中学校の統合に関する第2回鳴子温泉地域合同検討委員会が、令和3年10月21日（木）鳴子公民館で開催されました。「統合」については一定のご理解をいただきましたが、「小中一貫校」「義務教育学校」「統合校の設置場所」等について、各委員の皆様からご意見をいただきました。

第2回当日の資料や委員の皆様の見解などを以下の紙面に集約して皆様にお知らせします。

主な資料の説明

1 鳴子温泉地域保護者・地域づくり委員会等意見交換内容について

＜平成30年～鳴子温泉地域保護者・地域づくり委員会等意見交換内容から（抜粋）＞

- 道路が整備され、鬼首小学校付近から川渡地区まで、約20分で来るということも聞いた。実際に、中学生は鬼首地区から鳴子中学校まで通っており、保護者の意識も変わって来ているのではないかな。
⇒平成26年度には、…道路状況が変わり、実際に中学生がスクールバスで鳴子中学校に通っていることを踏まえ、鬼首小学校を含め、3校での統合が望ましいのではないかと考えています。
- 小中一貫教育について、どのようなものか。⇒小中一貫校のメリットとして、…中1ギャップの解消が見込めます。…中学校の教員が小学校の授業に乗り入れして、より専門的な授業を実施することが出来ます。小学校の教員が、中学校に上がっていった生徒の様子を引き続き見ることが出来ます。…小学校1年生から中学校3年生までの9年間、縦割り活動が可能となります。鳴子温泉地域は、…人数的に縦割り活動がやりやすい環境であると思います。…小規模であると、考えが偏ってしまうため、ある程度の人数が必要であると思います。
- 合同検討委員会について、例えば、部会を設置し、さらに詳細な内容を検討していく方法も検討していただきたい。⇒この会は学校統合についての合意形成が目的です。詳細な検討については、合意を得た後に統合準備委員会を設置し、統合準備委員会及び各部会で検討していくことになります。
- 跡地利用はどのようにするのか。⇒現在、政策課に小学校跡地利用調整担当を配置し、地域や企業等、その方向性について調査・調整を進めています。

2 鳴子温泉地域の学校再編（統合）の考え方

（1）教育施設再編の必要性和統廃合の推進 ※大崎市学校教育環境整備指針より抜粋

〔将来像〕

◇教育効果を高めるための将来的な標準規模の要件が満たされている。

⇒複式学級の解消，全学年1学級35人，小学校12学級以上

◇教育課程に新たな制度が導入されている。

⇒2020年度（令和2年度）からの新学習指導要領で道徳や外国語の教科が開始された。また、小学校と中学校が義務教育の一環を形成する学校として、学習指導や生徒指導において、互いに協力し責任を共有して目的を達成する小中一貫教育、小中連携教育が実践されている。

（2）鳴子温泉地域の学校再編 ※大崎市学校教育環境整備指針より抜粋

①鬼首小学校を除く鳴子温泉地域の小学校の統合を検討する。

②鬼首小学校の小規模特認校制度導入を検討する。

※通学区域の弾力化により、市教育委員会が小規模校の通学区域を市全域に指定し、児童を集めやすくする制度。

③鳴子温泉地域における小中一貫教育導入の可能性を検討する。

これまでの説明会等での意見を踏まえ、①②ではなく、鬼首小を含めて③で検討を進める

③鳴子温泉地域における小中一貫教育導入の可能性を検討する。

⇒鳴子中学校の余裕教室と一部改修等で対応し、校舎一体型の学校となり、小中一貫教育も可能となることから、鳴子温泉地域における最大規模での学校統合について長期的展望のもとに検討が望ましいと考える。

3 小中一貫校近隣先進校の事例（金成、色麻、閑上）

- ・現在、県内にある「小中一貫校（義務教育学校）」の先進校の「学校要覧」等を紹介しました。

4 義務教育学校のメリットとデメリット

- ・義務教育学校とは、小学校の6年間と中学校の3年間の義務教育期間の合計9年間で1つの学校として、一貫の教育を実施するための学校で、9年間の系統的な教育、継続的な生徒指導、異学年交流などが特徴です。
- ・義務教育学校のメリットには、中1の壁の緩和・解消、系統性を意識した小中一貫教育、異学年交流による精神的な発達などが挙げられます。デメリットには、中学校の新鮮さが無い、人間関係が固定化しやすい、などがあります。

主な質問や意見 ○はご意見とご質問 ⇒は教育委員会の回答

○小学校の統合は概ね合意。鳴子中学校で小中一貫という話ばかりで、そちらに向かって話が進んでいるのではないかと。

○川渡小界隈の施設が充実している。小学校だけのほうが子どもたちも落ち着いて学べるのでは。

○R7年の統合は是非お願いしたい。ただ、どこで小中一貫校という話になったのか不思議で、いつ切り替わったのか知りたい。

⇒小中一貫校にすることによって、児童にとっての利点があるということがある。制度上、教員を余計配置できることも利点の一つ。現在、古川西部地区はR5年4月に新たに義務教育学校が誕生する予定で、それを踏まえて鳴子温泉地区でも進めていけないかと考えた。しかし、義務教育学校が必ずということではないので、この会議において検討した結果、小学校だけの方がいいとなればその形で進めて行きます。ただし、小学校のみで統合し、施設改修で多額の費用を投じた後、「子どもが減ったから中学校と一緒にしてほしい」となっても応じられない可能性もありますので、長い目線ですっきりと判断していただきたい。

○川渡幼稚園、放課後児童クラブ、学童保育のこと等、これまで出たいろいろな課題の手立ては。

○学校の敷地内に利用できる部屋、建物を造っていただいてその中できちんとした学童保育を運営できたらいいなという思いがあります。

○鳴子と川渡の幼稚園が統合するとき、バスの料金を出す、迎えをお願いするというデメリットもあり、同じ問題が出てこないか心配。小中一貫となった場合、小学生と中学生の精神年齢は違うので、うまくやっていけるのか。これから関わらなければならない親御さんたちにアンケートを取る機会を考えてほしい。

○鬼首まで冬場のスクールバスが安全に運行できる保障がないのが一番の心配。道路面の問題や実際に通行止め等が起こった時の対応策をしっかりと考えていただきたい。

○最短で令和7年という話でしたけれども、それはいつ決まってからの話でしょうか。

⇒検討委員の方々の合意をいただけてからになりますので、合意の時期が遅れば統合時期も遅くなります。

○今回の統合についても、鳴子中の時と同じように安心感が醸成できるようにしてほしい。

○ゆっくり時間をかけて、よかったなと思えるような統合になってほしいと思っております。

○児童生徒の密な関わり合いが大事ということで、統合という形を考えたほうがいいのかなと、ただ、子どもたちが安心して統合校に入る準備としては、スパンはもう少し長いほうがいいのかなと思います。

○1年生から9年生となったときに9年間同じクラスなので対人関係のトラブルについての心配はあります。

○川渡小学校は伝統的に支援学級が充実しているので、そういった伝統をぜひ踏襲していただきたい。

○統合となれば現在の鳴子中学校の中に小学校が入るという認識でいいか。

⇒子どもたちが安心して学べる学校を創るために、しっかり準備していければと思います。

○統合に関しての情報が多くの人に知れ渡ってはいないような気がするので、みんなにわかるように周知していただきたい。

